

駅型保育所の利用実態と利用者評価に関する研究(第1報)

○田中 智子* 瀬渡 章子* 東海林 史子** 横森由希子*³

(*奈良女大、**奈良女大・院、*³東陶機器(株))

【目的】駅型保育所は従来の認可保育所やベビーホテルでは充足できない保育ニーズに対応していると予想される。本研究においては、駅型保育所を取り上げ、利用者の保育所に対する要求と、保育所の立地特性・サービス内容・運営体制との対応関係について現状と問題点を明らかにすることを目的としている。その1では、利用者属性、駅型保育所の選択理由、他の保育所との比較を中心に報告する。

【方法】近畿（奈良市、八尾市、堺市）に立地する3つの駅型保育所を対象に、経営者に対する面接調査および利用者（母親）に対する質問紙調査を実施した。調査期間は1997年11～12月。有効回収数60票、回収率75%であった。

【結果】利用者は他の保育所への入所も検討したが、認可保育所は入所待ちが多く保育時間が合わないこと、無認可保育所は保育設備が不十分であることなど、ニーズに合致せず、駅型保育所を選択している。母親の入院などのため緊急に保育所への入所が必要になったもの、専業主婦で認可の保育所を利用できないもの等の利用もみられる。現在、入所年齢別にみると3歳未満の低年齢児が大部分をしめているが、将来認可保育所や幼稚園に移りたいと希望するものもみられ、現状では認可保育所が保育サービスを補完する役割を果たしていること、保育サービスに対する要求が多様化していることがうかがわれる。